

# ICT（感染対策チーム）ニュース

2012.2.23 通算第7号  
札幌社会保険総合病院  
感染管理部 発行

## カテーテル関連血流感染防止



（緊急時におけるカテーテルの挿入等で）**無菌操作**を確実に採用できない場合、可能な限り早期（48時間以内）にカテーテルを交換すること

カテゴリーがⅡからⅠBへあげられています  
（2011年CDCのガイドラインより）

↑  
挿入時の  
勧告



当院においても1月の血液培養陽性者の中で、緊急時の挿入と思われる中心静脈関連血流感染症例が報告されています。

（血液培養2セット、CV血1セットより）

- 挿入前、手袋を着用する直前に手指衛生を行う。
- 挿入時には滅菌手袋、滅菌ガウン、帽子、サージカルマスクを着用する。
- 滅菌ドレープは患者を覆える程度の大きさのものを使用し、カテーテルやガイドワイヤーの汚染防止や清潔野の確保につとめる。
- 皮膚の消毒はポビドンヨード、0.5%を超えるクロルヘキシジンエタノールを用い確実に（十分な接触時間）行う。

※1%クロルヘキシジン製剤については今後検討

